

研究の概要

脳塞栓症後遺症がある患者A氏は、食事時に丸呑みやかき込み食いがあり見守りを要する。感覚性失語があり、言語的コミュニケーションは難しい。誤嚥性肺炎となり一時絶食となった経過があり、経口摂取をする上で誤嚥・窒息のリスクは高いと考えられる。一方、安全に経口摂取を続けられることは、食べることの楽しみによるQOLの向上の他に、脳の活性化など様々な効果がある。A氏が安全安楽に摂食できる方法を明らかにする必要があると考えた。

研究期間

承認日より2023年3月31日まで

研究機関の名称及び研究機関の長

独立行政法人国立病院機構山形病院
院長 川並 透

研究責任者の氏名

看護部5病棟
看護師 高梨 政裕

オプトアウト

特記なし